

残そう、自然の宝石箱・のりくら



# くらがね通信

No.53 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 25 年 7 月 20 日発行

## 自然観察会案内

### 『乗鞍岳自然観察会』 (雨天決行)

高山植物の花が真っ盛り。じっくりと観察してみませんか。  
新たな発見があるかも知れませんよ。ライチョウの親子に遭遇するかも。

日 時： 8 月 3 日(土) 午前7:00

集合場所： **ほおのき平バスターミナル**  
(7:25発のバスに乗車、16時までには解散予定)

参加費：バス料金 (今回は会員割引はありません)  
(往復利用) 大人2,200円 小人1,100円

持ち物：参加費、お弁当、飲み物、雨具、その他必要と思われるもの  
夏とはいえ高山です。それなりの服装・装備を準備してご参加ください。

今年もやります。 **アサギマダラ マーキング会** 参加無料

日 時：9 月 1 日(日) 午前 8:00 (少雨決行)

集合場所：「道の駅・ひだ朝日村」(朝日町)  
集合後、乗り合わせて旧濁河スキー場へ移動。  
15:30 頃「道の駅」にて解散予定

持ち物 捕虫網(貸出もあります)、油性フェルトペン(黒・細書き用)、  
弁当、飲み物、メモ用紙、日除け対策・雨具も忘れないでネ

観察指導 **鈴木 俊文 氏** (岐阜県昆虫分布研究会)

## 公開講座 自然談話室

お話：小野木三郎 副会長

9 月 6 日(金) 高山植物をたずねて 10 月 4 日(金) 植物の垂直分布とは  
11 月 15 日(金) 北方タイガの森とモンゴル草原を訪ねて

時間： 午後 7 時より 場所：高山市民文化会館

各行事への問い合わせ先 宝田 (090-1231-4630)

## ライチョウ観察会に参加できて

塩谷 恵子

6?歳にして初めて雷鳥が見られるかも知れない・・・見ることはできないかもしれない・・・半信半疑の出発でした。・・・いいえ、出迎えてくれました、雷鳥が。これで充分と思っていました。

歩くこと何分だったのでしょうか。鶏より早くチョコチョコと歩く雷鳥君が現れ、話で聞いていたディスプレイをしてくれたのです。ハイマツの中には雷鳥ちゃんがいるかも。期待通り雷鳥ちゃんが現れました。でもビッコをひいているのがとても気になりました。

縄張り争いをする雷鳥君達。仰いで見た富士見岳では上から縄張り争いをする雷鳥君を・・・もう何羽見られたのでしょうか、チョコチョコ歩

## ライチョウ観察会

藤原 茂由

昨年七月に高山税務署長を拝命して、飛騨に来て十一月。私の出身は根尾村(本巣市)で、現在、自宅は瑞穂市にありますので、生粋の岐阜県人ですが、これほどまでに飛騨地方が自然・歴史・文化に秀でているとは正直言って知りませんでした。

そこで、休日も自宅に帰らず、新婚二四年の嫁さんを時々こちらに呼んで、可能な限り飛騨地方のあちらこちらを見て回ることにしました。ただし、自家用車は持ってこなかったもので、機動的には活動できませんでした。もっぱらバスと、署の仲間に頼んで車に乗せてもらいました。とにかく祭りやイベントがあれば、何とか見に行けないか考えました。

その中でも一番、心引かれたのが登山です。JRのさわやかウオーキングが高じて、三年程前から嫁さんと自宅近くの金華山や百々ヶ峰、養老山、伊吹山等に登り、日本人なら一度はということで平成23年のお盆には富士山にも登りました。また、同年11月には上高地に日帰りバス旅行に来て、飛騨山脈の山々を仰ぎ見ながら「あれは高山税務署の管内だな。自宅か



足元には2羽のライチョウが(大黒岳)

いていた雷鳥君は谷を飛び回るので。圧巻でした。初めてにして色々な動きをする雷鳥が観られてありがとうございました。

帰りに、初めて出会った雷鳥君はまだその場所において(桔梗が原の看板の上で少し移動していましたが)バイバイ、また来てネと言っているようでした。

らは遠いし、三千メートル級の山ばかりだから僕らには登るのはちょっと無理かな」とため息をついておりました。

そうしたところ、昨年7月に思いがけず高山税務署長を拝命し、これは天恵に違いないということで山に登ろうと思いましたが、残念ながら当初は仲間が見つからず、8月4日に一人でバスに乗って乗鞍山頂に登りました。高山駅からバスと徒歩で三時間半後には3026メートルの頂上にいるなんて信じられませんでした。天気は快晴で景色もよく、高山植物も可憐で、思わず見ず知らずの何人かに「こんな素晴らしい山は日本全国にもないんじゃないですか」と話しかけていました。

しかしやはり登山は一人では怖いので何とか同じ宿舎の署員三人に登山靴を買ってもらい、9月15日は西穂独標、10月6日には焼岳に登りました。署の他の人たちにも飛騨の自然の素晴らしさを知ってもらおうとレクリエーションを企画し、五色が原、紅葉の天生峠(靱糠山)、新穂高ロープウェイでのスノーシュー体験などにも行きました。

それ以外にも、嫁さんを含む数人と、位山、川上岳、船山、高屹山、天蓋山、福地山、萩原の御前山、御嶽山（残雪で途中リタイヤ）にも登りました。飛驒の山々には杉や檜の人工林もありますが、多くが自然林でありブナを初め、檜・白樺・だけかんば・コメツガ・シラビソ・大シラビソ・桂・一位など、その樹木の種類も豊富で、季節ごとに表情も変わり、全く飽きることはありません。

乗鞍に話を戻しますが、昨年8月4日に一人で登ったのに続き、10月7日には前日の焼岳に引き続き嫁さんと登りましたが、そのとき乗鞍は初冠雪で霧も出てきて、幻想的な登山となりました。

今回の6月2日の乗鞍での「ライチョウ観察会」の情報は数日前の「高山市民時報」で私が見つけ、署の仲間二人と参加しました。ほおのき平の駐車場で「ライチョウ観察会」に参加する人たちに合流したところ、思いがけず小野木三郎先生もおられ、びっくりしました。というのは、小野木先生には5月7日に署で教養講話「飛驒山脈こそ世界遺産」を実施していただき、その洒脱な語り口と飛驒の自然を愛する心に感動を覚え、ゆっくりお話を伺うべく、もう一度お会いしようとして先生と連絡を取っていたところだったからです。ほうのき平での偶然の出会いに運命を感じたところです。

さて、豊平行きのバスを待つ間、タクシー運転手さんからライチョウの情報を収集したところ、なかなか近くで見るとは難しいとの印象を受けておりました。ところが、が豊平に近づくと「あ、あそこの杭の上にいるよといった声が数回上がり、私も一羽は見たように思うのですが、バスは動いているので一瞬の出来事でした。

豊平に到着し、参加者の皆さんと一緒に大黒岳の麓に差し掛かると、歩道から百メートル程向うの岩の上に一羽の雄のライチョウがいるのが肉眼で何とか見られました。また、大黒岳の頂上付近で捜していると、まるで誰かが演出したように一羽の雄のライチョウが空中を舞い、やはり歩道から100メートル程離れた岩



の上に降り立ち、これも双眼鏡でゆっくり観察することができましたが、私のデジタルカメラでは、最大限拡大しても何とかライチョウがいるのが判別できる程度の大きさでした。近くでライチョウを見ることはもともと期待していなかった私は「まあ、こんなものだろう。何とかデジタルカメラにも写せたので満足せねばなるまい」と思って大黒岳を下り始めました。

そうしたところ「歩道のすぐ近くに雄のライチョウがいる。多分、雌も近くにいるはずだ」と言う声がしたので近づいてみると、歩道から10メートル程のところを雄のライチョウが悠然と歩いていました。それを写真に撮っていると、ハイマツの影から雌がひょいっと飛び出してきて、雌雄のライチョウを一つの画面に映すことができるという幸運にめぐり合うことができました。

後日談になりますが、この「ライチョウ観察会」には岐阜新聞・岐阜放送の記者の方もいて、写真やビデオを撮ったりしていたので、翌日の新聞等を期待していたのですが、翌日の岐阜新聞には私と一緒に参加した仲間二人がメインで掲載されており、残念ながら私は写っておりませんでした。しかし、小野木先生が出演した岐阜放送の「飛驒国テレビ」では私が双眼鏡でライチョウを熱心に観察している姿が放送され、少しうれしかったです。

今年は乗鞍スカイライン開通40周年ということもあり、この素晴らしい自然を多くの人たちに見て感動していただきたいと思う反面、環境が悪化しないように注意が必要です。

「乗鞍岳と飛驒の自然を考える会」等の活動によって、環境保全と観光の両立が図られることを期待しております。

## 高山市長へ質問書を提出しました。

高山市では全国に先がけ、地方都市では4番目の早さで平成22年に「生物多様性ひだたかやま戦略(基本構想編)」を策定し、この戦略の具体的な取り組みを推進するための「実執行動計画編」(平成23年)も策定しています。

当会では講演会や会報などでこの戦略を取り上げて着ました。また去年は5回にわたり公開講座「自然談話室」を開催しました。その上で市民が期待する『実執行動計画(案)』づくりを進めています。そこで高山市のこれまでの具体的推進状況がどうなっているのか教えていただこうと6月12日に『生物多様性ひだたかやま戦略実執行動計画の推進状況についての質問』を提出しました。

## 乗鞍スカイラインEV乗入れ実験・研究事業

乗鞍自動車利用適正化協議会は、昨年行なった上記事業を今年も行ない募集を始めた。

昨年の事業でモニターから事前アンケート121、事後アンケート112、シャトルバス利用者アンケート289を行なった。それによると、参加者の県内居住者が7割を占め(高山市内居住者5割、県内2割)、シャトルバス利用者ではこの事業を知っていたのは25パーセントのみでありPR・広報が足らなかったことは否めない。また市内居住者だから宿泊、みやげの購入などはおよそ見込めないで地域振興の観点からはあまり期待できそうもない結果となっている。しかし、EV乗入れ以外で求められている取り組みのアンケートでは「宿泊とのパックツアー」への回答が87パーセントになっている。

その反面、自由に移動できるということもあり、事前レクチャーを受けているにもかかわらず、立ち入り禁止区域への踏み込み、高山植物の採取が目撃されている。今回“偶然”目撃されたが目撃されていないだけで他にもあったかもしれない。EVでもハイブリッドでもこのようなことが起こることは以前から予想されているはず。マイカー規制が緩和されればなおさらである。

昨年度の事業評価・分析を基に地域振興を考慮し今年度は宿泊者を優先した事業になっている。

### ◎昨年との主な変更点

- 開催日 8月17日～9月18日 → 8月1日～9月16日
- 参加資格 先着順 → 宿泊者優先(先着順)
- 参加料金 モニター料金無料 → モニター料金車一台1,500円
- 申込締切 参加希望日3日前まで → 5日前まで(ただし7日前までは宿泊者のみ)
- 定員 1日あたり3グループ → 4グループ
- 特典 事業協賛施設を利用の場合施設ごとの特典が受けられる(今年度新規項目)

※この事業内容の詳細については高山市環境政策推進課のホームページで見られます。

会員状況 平成25年6月末会員数 一般 94名, 団体 4団体

■ 会員を募集しています! 年会費 = 個人 2,000円 家族 3,000円 団体 5,000円  
あなたの知人、友人に  
入会をおすすめください

- ・ 郵便振替 00800-8-129365
- ・ 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第53号 (夏号) 平成25年7月20日 発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237 表紙写真提供 : 小池 潜